

学会ホームページ <http://jasce.jp>

043号(2018年3月26日)

目次

第15回全国大会の概要
国際協同教育学会 (IASCE)
2019台北大会
『協同と教育』への投稿募集中
会員情報の変更届
会費の納入のお願い
学会ワークショップ
開催報告
今後の予定(判明分)
各地の研究会・勉強会
ショートレター(会員からの投稿)

第15回全国大会の概要

第15回JASCE全国大会が、梅花女子大学(大阪府茨木市)で3日間にわたり開催されます。皆さまのご参加をお待ちしています。

1. 大会日程

2018年11月16日(金)
午後ワークショップ3題
2018年11月17日(土)
大会1日目・情報交換会
11月18日(日) 大会2日目

2. 大会テーマ

「学びの質を問いかえす
—協同学習の視点から—」

3. 大会発表の受付

(1)発表等募集期間
口頭発表(研究発表と実践報告)、
ラウンドテーブル、ワークショップ
開始日 2018年6月1日(金)
締切日 2018年7月20日(金)
なお、非会員の方で新たに会員と

なり発表を申し込む場合、6月25日までに入会申し込みと年会費入金が完了している必要があります。

4. 事前参加申込と参加費入金

受付開始日 2018年5月1日(火)
受付締切日 2018年9月10日(月)
(注)締切日に間に合わない場合は、大会当日、参加を受け付けますが、混雑を避けるためにできるだけ事前登録をお願いします。

5. 会場案内

会場は梅花女子大学山草館F棟の教室を用います。駐車場の空きがありませんので、スクールバスをご利用ください。

梅花女子大へのアクセス

<http://www.baika.ac.jp/access/>
第15回大会のページ
<https://jasce.jp/conf1501.php>

第15回大会実行委員長 緒方 巧

国際協同教育学会 (IASCE)

2019台北大会

2019年3月22日(金)~24日(日)、国際協同教育学会(IASCE)の台北大会「東アジアと世界の協同学習:卓越性の獲得と持続」が、台湾協同学習プロジェクト、日本協同教育学会との共催で開催されます。

JASCE会員の方には英語サポートや大会参加費免除(選考あり)の特典があります。

【日程】2019年3月22日(金)~24日(日)
希望者は3月21日の午前に学校見学、午後に市内観光あり(別途申込)。

【場所】

国立台北教育大学(台北市、台湾)
(次ページに続く)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿は随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月を要します。編集委員会では学会機関誌『協同と教育』第14号(2018年発行)に向けての積極的な投稿をお待ちしております。

会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などにもなっており、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届け出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。
(<https://www.jasce.jp/php/1044form.php>)

会費の納入のお願い

本年度の会費4,000円を納入していない会員の方は、早急の納入をお願いいたします。次の口座にお振込み下さい。3年度を超えて会費が未納となった場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行
支店 ○一九
口座番号 (当座)0315442
名義 日本協同教育学会

◇郵便局で「振込取扱票」を

お使いの場合
口座記号・番号 00100-8-315442
加入者名 日本協同教育学会



国際協同教育学会 (IASCE) 2019 台北大会

【発表テーマ分野(ストランド)】

- ストランド1. 教室実践と教師教育
- ストランド2. 多様で相互に依存した世界における責任ある市民性
- ストランド3. 協同的リーダーシップと学校の発展
- ストランド4. 創造性、革新性、および問題解決
- ストランド5. 情報、コミュニティ、およびテクノロジー

【発表形態】

- ワークショップ(90分)
- ラウンドテーブルディスカッション(45分)
- 研究発表・実践報告
(3発表で90分、一人25分の持ち時間)

【日本協同教育学会の会員特典】

JASCEでは、できるだけ多くの会員に国際学会で発表いただけるよう「大会参加費補助」と「英語サポート」の二つのサポートを行います。

1. 大会参加費補助

JASCEが発表を適当と認めただ方に、国際大会参加費をJASCEが全額補助します。希望する会員は、JASCE会員専用の申込ファイル「Proposal Form」をJASCEのホームページからダウンロードし、「Cover Sheet」「Details」の両シ

トに必要な事項を記入して、2018年6月30日(土)までにメール添付で伏野(kumiko-fushino290729@nifty.com)にお送りください。

JASCEの審査(2018年8月20日に査読結果連絡)で大会参加費補助が承認された方については、JASCEから一括して国際大会事務局にプロポーザルを送ります。IASCEに自分で申し込む必要はありません。

一方、JASCEによる大会費補助を必要とされない方は、JASCE会員であってもIASCEの2019年大会ページ(<http://www.iasce.net/>)を参照し、直接IASCEにプロポーザルをお送りください。

2. JASCE独自の英語サポート

英語での発表に慣れていない方のために以下のサポートを行います。これはIASCEによるサポートとは別のJASCE独自のものです。

1) プロポーザル作成サポート

プロポーザル(発表申込・発表要旨)作成のための英語サポートを希望される方は、2018年5月10日(木)までに伏野にメールでご連絡ください。メール本文に「英語サポート希望」とご記入ください。前述のJASCE会員専

用フォーム「Proposal Form」を使用し、日本語まじりの英語でもかまわないので、まずご自分で書いて添付ファイルでお送りください。サポート後の完成版は6月30日(土)までに伏野にお送りください

2) 発表原稿作成サポート

発表原稿の英語サポートを希望される会員は、プロポーザル承認の連絡を受けた後、速やかに伏野にメールでご連絡ください。まずはご自分で英語にするか、どなたかお知り合いの人に原稿の英訳をお願いしてください。それをもとにサポートします。

3) 口頭発表サポート

当日の口頭発表の際、発表そのものは発表者が行いますが、発表補助者がついてフロアとの交流や質疑応答のサポートを行います。希望者は事前に伏野にご相談ください。

日本の優れた協同学習の実践を世界に紹介する絶好の機会です。皆さん、張り切って参加しましょう。台湾は日本から近いですし、食べ物もとてもおいしいですよ。

国際渉外担当理事 伏野久美子
kumiko-fushino290729@nifty.com

ワークショップ今後の予定 (判明分)

<ベシック>

2018年6月9日(土)~10日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎5号館522教室

講師:水谷 茂

2018年8月25日(土)~26日(日)【公認】

会場:南山大学(名古屋市)

D棟D51教室

講師:長濱文与・石田裕久

2018年12月1日(土)~2日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎0号館0604教室
講師:水野正朗

<アドバンス>

2018年11月10日(土)~11日(日)【公認】

会場:南山大学(名古屋市)
D棟D51教室

講師:関田一彦・石田裕久

<一日研修>

2018年8月21日(火)【公認】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎5号館522教室

講師:水谷 茂

※定員になり次第、受付を終了します。
申込み方法、ならびにワークショップの詳細は下記URLをご覧ください。
(<https://jasce.jp/1031workshop.php>)

学会ワークショップ開催報告

<ベーシック>

2月24日(土)～25日(日)【主催】

会場:宮城学院女子大学(仙台市)

人文館5階C511教室

講師:和田珠実・石田裕久

東北で初めて開催したワークショップは、和気あいあいと楽しく和やかに開催することができました。「協同学習は、ほんやりと、グループで話し合うイメージしかありませんでした。体験してみても、実感してみても、それが変わりました。」「学びの楽しさを実感できた充実した2日間でした。」「学級で実践したいことがたくさんありました。ワクワクした気持ちで終わることができました。」「体験と理論を取り入れたワークがとても良かったです。仲間とじっくり「振り返り」を共有する時間が貴重だと思いました。」「今回、参加された皆さんからの感想です。和田先生の細やかな気配りに溢れたファシリテーションと、石田先生の的確なご助言で、協同教育について参加者同士でじっくりと考えることができました。また、木村先生が企画した昼休みの「礼拝堂ツアー」や「こけしコレクション鑑賞ツアー」も大好評でした。皆さんと素敵な時間を共有できたワークショップとなりました。

(熊谷みち)



3月3日(土)～4日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)

教職大学院棟V409教室

講師:石橋裕子・関田一彦

今回のワークショップには、リピーター4名を含む19名が参加されました。北海道、大阪府、愛媛県、鳥取県、新潟県からの参加もあり、熱心に学ばれる姿に感激しました。また、看護関係の先生方が8名と多く、看護教育の中に協同教育が広まっていることを改めて感じました。音楽を使ったアイスブレイクで始まった講座は時間がたつにつれて熱を帯び、休憩時間もお茶を片手に、直前に体験した技法や理論について、また教育についての話に花が咲いていました。1日目は「協同学習の考え方」や「協同と競争の考え方」などを学び、2日目は「ジョンソンたちの定義」を一つ一つ丁寧に確認したり、「互恵的な関係を生み出す工夫」を<特派員(お出かけバス)>で理解を深めたりなど、2日間充実した協同学習を行いました。講座終了時には「是非、アドバンスも受講したい」と言ってくださった受講生も多く、協同学習の醍醐味を体験した2日間になったことを感じました。(石橋裕子)



3月10日(土)～11日(日)【主催】

会場:鳥取看護大学(倉吉市)

講師:安永悟

昨年に続き、倉吉市で二回目となる協同学習ワークショップ(ベーシック)を開催することができました。今年も土居裕美子先生はじめ鳥取看護大学の教職員の皆様の心温まる「おもてなし」により、実に有意義なワークショップになりました。

参加者は20名(県内:16名、県外:4名)でした。中学・高校・大学・行政と、さまざまなバックボーンをもった皆さんが積極的に交流し、熱気あふれる二日間でした。倉吉市での協同学習ワークショップを今後とも継続することを通して、山陰地方の拠点づくりが進むことを期待しています。(須藤文)



<アドバンス>

3月3日(土)～4日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)

教職大学院棟V309教室

講師:伏野久美子

3月3、4日に東京八王子の創価大学でアドバンスのワークショップを行いました。参加者8名という小規模のものでしたが、九州、大阪、また、雪深い富山や新潟などから参加してくださった方もおり、雪も融かしそうな熱気あふれたワークショップになりました。協同学習の技法の意図するものをみんなで考え、協調のスキルを磨き、協同教育のめざすものを体験的に理解する機会になったのではないかと思います。頭をフル回転させて考え、話し、協力し合った2日間でした。皆様、本当にお疲れさまでした。また、ベーシックを終了されている方はぜひアドバンスを受講され、協同学習の醍醐味、深みをもっと体験してください。お待ちしております!(伏野久美子)



各地の研究会・勉強会

(東北地域)

宮城協同教育を学ぶ会

◇2月22日、白石市立南中学校で「授業づくり研究フォーラム」を開催しました。「学ぶ場所」という同じ基盤の上で、小中高大ではそれぞれどんな考えをもって授業づくりをしているのかという観点からパネルディスカッションを企画しました。

コーディネーターは木村春美先生、パネラーは小中高の各教諭とベネッセの担当者にお願ひしました。教育現場における研究と実践のジレンマが話題になるとともに、他校種における指導への関心の高さが感じられました。最後に、杉江修治先生からグループワークを取り入れながらのご講演をいただきました。宮城でもみんなで授業づくりや集団づくりを考えていきたいと思ひます。

連絡先:熊谷みち

(宮城協同教育を学ぶ会 事務局
mm.kumagai@gmail.com)



協同学習を学ぶ会 in 福島

◇3月17日(土)、福島県郡山市の県立安積黎明高校で、第1回「協同学習を学ぶ会 in 福島」を実施致しました。関田一彦先生を講師にお迎えし、「『主体的・対話的で深い学び』～

効果的なアクティブラーニングとしての協同学習を学ぶ」と題して、協同の内に富んだワークを交え、約3時間の研修を行いました。小中高大の教員や管理職、大学生、教育センターや教育庁の指導主事、スクールカウンセラー等の24名が、福島・宮城・栃木から集い、熱心に受講致しました。本研究会は、子どもたちの「自らを生きる力と共に生きる力の育成」を目指し、教科教育と生徒指導の一体化、協同学習の全教育課程での実施を目指して活動していく予定です。

連絡先:渡辺正雄

(協同学習を学ぶ会 in 福島 世話人
nrc38822@nifty.com)



(名古屋・東海地域)

Learning Design Community

(静岡県)

◇第12回勉強会

三島市生涯学習センターにて、平成30年2月9日(金) 18:30~20:30

ITコンサルタントで地元の教育関係企業にお勤めの野本竜哉氏をお招きし、学校におけるICT導入に関する講話とブレインストーミングを行いました。11名が参加し、恒例の取り組み事例の相互意見交換会も実施しました。

連絡先:鈴木映司

(静岡県立韮山高等学校

suzukifamilyeiji@yahoo.co.jp)

名古屋・協同の学びをつくる研究会
(愛知県)

◇1月例会を1月22日(月)午後7時から名古屋大学教育学部第2講義室で開催しました。テーマは「総合教育センターにおける研修スタイルの改善」。発表者は金澤 学先生(愛知県総合教育センター情報教育部 研究指導主事)。教育センター情報教育部の研修が「主体的・対話的で深い学び」につながるスタイルに改善されている現状が報告されました。研修に参加した教員が、勤務校に戻って教員研修を自ら工夫して行うという仕組みも斬新で、対話型・知識構築型の研修スタイルが、その学校の授業デザインに波及して良い影響を与える可能性があるという議論が行われました。

連絡先:水野正朗(東海学園大学
mizunokita@yahoo.co.jp)



協同学習と動機づけ研究会

(三重県)

◇平成30年2月10日(土) 14:30~18:00の日程で三重大学教育学部1号館2階201教室において第2回研

研究会が開催され、30名の参加者がありました。まず、南学先生(三重大学)によりゲーミングについてセッションが開かれました。ゲーミングの特徴や可能性、具体例、そして協同学習との共通点について紹介されました。2番目の参加者セッションでは、参加者同士の意見交換を通して「主体的な学びを協同学習でどう実現するか」について学びを深めていきました。3番目のセッションでは、中西良文(三重大学)の担当で、グループ全体で没頭状態に入り込むグループフローについて検討しました。グループフローをもたらす10の要件についてのカードを用い、個人、ペア、全体で意見共有を行いました。最後に、長濱文与先生(三重大学)のファシリテートにより、研究会全体の振り返りをグループで共有することで、研究会を締めくくりました。

今回の研究会も前回と同様、熱のこもったものであり、休憩時間にも参加者が席から離れずグループでの話し合いが続くなど、盛んな情報交換がなされました。

連絡先:中西良文(三重大学)
yosifumi@edu.mie-u.ac.jp)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇1月26日(金)に開催した研究会では、有田弥棋子先生が研究の下準備として訪問されたネパールでの活動報告を拝聴した後、各自が今年度の授業実践を振り返り成果と課題を発表し合いました。ディスカッションによって、自分が気づけていなかった成果

や改善点を見いだすことができ、協同学習への理解が深まるとともに次年度の授業づくりに意欲が高まったとの感想が寄せられました。

3月23日(金)の研究会では、南山大学から石田裕久先生をお迎えして、「協同学習と評価」について勉強会を開催しました。通常は定員24名ですが、今回は先生方の学習意欲に圧倒され35名で開催、懇親会は24名の参加となりました。石田先生と教師仲間との充実した対話的学びを次年度の教育活動に活かしていきたいと思えます。

◇2018年度の開催予定

場所:グランフロント大阪北館2階
ナレッジキャピタルThe Labアクティブスタジオ

時間:19時~21時、日程:2018年5月25日、7月20日、9月28日、2019年1月25日、3月29日。※今年度の11月は、第15回大会開催月のため開催しません。

参加申し込み先:緒方巧(梅花女子大学)
t-ogata@baika.ac.jp)



(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇3月研究会の報告

2017年3月3日(土)午後2時から

本年度第4回研究会を開催しました。久留米大学の安永悟先生・須藤文先生を講師にお迎えし、LTD話し合い学習法に関するワークショップを行いました。

◇2018年度の開催予定

場所:岡山大学教師教育開発センター東山ランチ

時間:14時~17時30分、日程:2018年7月14日、9月1日、12月1日、2019年3月2日。

連絡先:高旗浩志

(岡山大学教師教育開発センター
takahata@okayama-u.ac.jp)

(福岡・九州方面)

授業づくり研究会

◇1月27日(土)午後1時から久留米大学御井キャンパス500号館2階52B教室で開催しました。森永謙二先生(久留米大学)による「道徳の授業について」の実践報告と、本年度のふり返しを行いました。

◇2018年の開催日程(予定)

授業づくり研究会:5月26日、9月29日、12月8日

協同教育フェスタ:7月21日

いずれも開催日は土曜日で、会場は学生会館3階ミーティングルーム3です。詳細については決定し次第、下記のホームページに掲載し、メールリストでお知らせします。

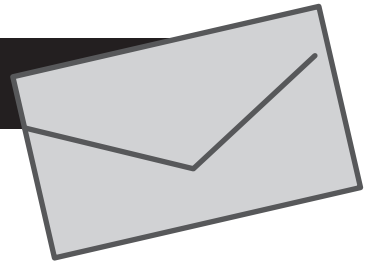
協同教育研究所「結風」のHP

(<http://yuikaji.me/wiki.cgi>)

連絡先:安永悟

(yasunaga_satoru@kurume-u.ac.jp)

ショートレター 会員からの投稿記事



「協同と協働」

日本協同教育学会は「協同学習」の実践と研究を進めてきました。近頃、「協働学習」という用語が使われるようになってきました。文科省もこれを多く用いるようになってきています。この二つは同じなのか違うのか、違うとすればどこが違うのか、多くの方が気にしているように思います。

協同と協働の違いを、私は次のように理解しています。

協同は cooperation、協働は collaboration の訳語ですね。故三宅なほみさんや白水始さんらは後者を「協調」と訳してもいます

「協同」はグループダイナミックスの用語であり、「協働」は認知心理学の用語から出ています。2000年に出された植田一博・岡田猛編集の『協同の知を探る』(共立出版)では collaboration を「協同」と訳していますが、この辺りが、認知心理学が関心の幅を広げて、個人の頭の中だけでなく、人と人との間の情報のやり取りも研究するようになった成果がまとめられるようになったころだと思います。

認知心理学からのアプローチは新興勢力ですので、当時のアメリカの研究者などは、これこそが進んだ研究だと強調を繰り返していました。いかにもアメリカらしい気がします。日本の研究者の中にも、協同の研究を十分に学ばないまま、協働が協同にとってかわったと思っている人もいるかもしれません。

認知心理学は実証性を重んじ、着想も豊かで意義ある研究が出されてきていると思っています。この領域での研究が進んできていることはとても有意義だと思います。ただ、認知心理

学の背景にある研究上の問題点だと私が考えているのは、学習者の動機づけへの関心が薄いことです。認知心理学の基礎研究では、学習者が動機づけられていることを前提とした研究が多いのではないかと思います。

したがって、協働研究の多くは、動機づけられていることを前提にしても差し支えの少ない研究者の協働、大学生の協働という、大人の意見交換場面で進められてきました。子どもの学習では、彼らをどう動機づけるかが大事なはずですが、実践と結びつく子どもの協働に関する研究は、そのスタートにはなかったように思います。

最近では文科省や教育委員会の肝煎りで、義務教育にも協働学習が授業の進め方としても推奨されてきていますが、上記の理由で懸念を持ちます。大事な学習者の動機づけへの配慮が欠如する恐れがあると思うのです。すぐれた実践者が実践化の工夫にかかわれば、理論で落ちているところを補ってくれ、成果をあげることはできますが、それは協働学習の手柄ではありません。実際、協働学習の実践研究はまだ乏しい実態があるので、現場に混乱を呼んでいるのが実情だと聞きます。

協同学習は19世紀末からの集団研究に端を発する実践理論です。日本ではバズ学習、小集団学習という形で理論的にも実践的にも研究が重ねられ、成果が積み上げられてきました。単なる学び合いの学習技法ではありません。

私は、協同という、集団自体が呼び起こす、集団メンバー全員への動機づけが協同学習という学習指導論

のベースだと考えています。そして、仲間全員の成長を当てとする協同の集団文化のもとでの学習であれば、形態は問わないと考えています。一斉形態での学習でも協同学習は可能だと思っています。協同的な学級経営の上に、認知心理学的にも合理的な授業をのせるという形を推奨しています。

協同と協働は、互いに補い合うべきものを持った理論だと考えます。ただ、効果的な実践づくりに際しては、現状では協同学習をベースに置くべきだと思います。

文科省が「協働」を使うのは、文科省にかかわっている教育心理学者の多くが認知心理学者だということにあるのかもしれませんが。新しい用語ですから、新味も感じているのかもしれませんが。ただ、漫然とグループで話し合わせるのが協同学習だという安易な誤解が混じっているとすれば問題ではあります。

なお、私自身は、実践の上では二つの用語の違いは気にすることはないと考えています。協同学習の優越性を主張する必要もないと思います。実践の場では、一人ひとりの教師が、意思決定者として、自分自身の指導論を鍛えることが大事だと思っているからです。協同学習の実践と理論にはそのためのヒントがたくさんあります。協働学習研究によってさらに情報が加わっていけばそれはとても好ましいことだと考えます。

(杉江修治)